

景況実感調査(2021年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日は18日と、対前月3日減。対前年では同日数となったが日足売上は単価が切り上がって来たが数量減となり、ほぼ前月並みとなった。メーカーからの値上げスケジュールは価格と共に経験したことのないレベルとなっており、得意先がこのスピードについて来ることが出来るのだろうか。このバッファーとなるのが流通しかないビジネスモデルでは、国内マーケットは持続可能性を失うことになるのではないか。
- ② メーカー値上げに右往左往した一か月。日に日に値は上がり、成り行き状態はまだ続きそう。価格転嫁は待ったなしで進めているが不安が募る。
- ③ 材料の逼迫感としては、年明け1~3月の時よりは多少の歯抜けサイズはあるものの在庫できるようになってきた。巣ごもり需要は相変わらず継続しており、コンビニ、スーパーの棚等の材料がよく出ている。建築物件は中小の案件が低調のまま。
- ④ 5月は前月比、日当たりで横這いであった。自動車関連は半導体不足の影響で減産傾向になり、一般的に需要は落ち着いている。しかし、依然として品不足は解消されず、価格の上昇基調も終わりの見えない状況だ。
- ⑤ 稼働日数が18日間しかなく、月次ベースで生産加工数量も20~30%ダウン。6月以降に期待したい。
- ⑥ メーカー値上げを遅れながらもユーザーへ転嫁。
- ⑦ 数量カットと値上げのダブルパンチは、我々は受けるにしても顧客が耐えられない。与信不安が一層つのる。最終ユーザーが認めてくれないケースが多く、路頭に迷う顧客が増えていく。国が介入しないのが不思議で仕方ない。

中板

- ① 鉄鋼メーカーの大幅値上げが続いている。価格転嫁に努力していく。
- ② 連休駆け込みが期待外れに終わった受託加工は、5月に入っても盛り上がりせず、前月比で稼働日数減とはいえ落ち込んだ。一方、トータルいくら値上げになったのか分からないくらいの錯覚をするメーカー値上げ表明の影響は、市況の上昇だけに留まり、大手紐付き等ユーザーへの大幅改定の声は皆無で聞こえてこない。価格転嫁の循環があらゆる需要先に実効されない限り、どこかで破綻をきたし、先ずそのしわ寄せを受けるのが下部流通であることは間違いない。中国起因の需要変動は必ず来ることを意識しながら、日々の営業に勤しみ、次の変化への準備をしていかなければならない。
- ③ 東京製鉄、日本製鉄と更なる大幅値上げを発表。SS400材に比べ、無規の引合いも多く、在庫が溜まらない状況が続く。価格も値上げが急すぎて、各社によって差が出て値上げ交渉が難航している。海外マーケットとの価格の開きがまだあり、更なるメーカー値上げの価格転嫁を粛々と進めて行く状況が続く。

厚板

- ① <全体感>鉄鋼メーカーの供給タイト感は一層強まってきている。鉄源が自動車向けの薄中板や輸出向けに集まり、国内は店売り向けを中心に供給不足が続いている。これに伴い、市中材の引合いが増えているが、各特約店の在庫も逼迫してきており、今後材料手当が一層困難になる状況が予想される。<分野別>建機は引き続き好調。供給タイトな中で、今後建機メーカーの増産計画に向けての材料確保に苦慮している。産機も中国が牽引する形で出荷が増加しており、中国メインでない産機ユーザーについても欧州や北米向けの出荷が増加傾向になってきている。店売りは、切板の引合いが今一つで、街場は盛り上がり欠ける状況が続いている。<その他>各鉄鋼メーカーは厚板価格の大幅な値上げ要請に関しては、GW以降圧力が一層強くなってきている。流通サイドの価格転嫁については、メーカーの値上げスピードには追いついていないものの、徐々にユーザー側に浸透してきている。
- ② 建機関連の増産もあり、需要家向け厚板は好調。店売り関連はやや苦戦。

一般開形鋼

- ① 4月に各指標が好転したので潮目の変化を感じたが、4月より営業日数の少ない分以上に5月は落ち込み、この1年間で最低の結果となった。小口ばかりの発注で、運賃負担増。急激なメーカー値上げで口銭取れず。コロナ禍以前への回復については、鋼材価格以外は悲観的となった。
- ② 5月は全般的に荷動きが悪く苦戦したが、まずは値上げが急務。
- ③ 鋼材価格がかなり厳しく、転嫁できていない。建築現場が出てこない。来年から再来年に出て来るのではないかと。職人さん不足になるのが怖い。

HI開形鋼

- ① 5月の倉出しは微減。前年同月比は微増。前月と大きな変化はなく中小案件中心で、土木向けは底堅い需要はある。メーカーの急ピッチの値上げ分を早期に転嫁していく。
- ② 5月の荷動きについては、稼働日の減少もあり数量は対前月比減少も、日当たりでは微増となり、また前年同期比では増加と、良くはないものの決して悲観することはないと思われる。ただ、採算的にはメーカーの大幅な値上げを受け、伝票上でも赤字になるのは時間の問題。もう、他社がどうの、需要がどうのと言っていない状況となっており、事業存続のために何が何でも適正なマージンの確保ができる市況形成を急ぐしかない。

異形棒鋼

- ① 5月はスクラップ、東鉄の値上げで雰囲気は一変した。店売りも6月は9万円台になっていく。動きはあまり変わらない。
- ② スクラップ市況の上昇、メーカー販価の値上げで市況押し上げに苦戦。需要が少ない中での転嫁は厳しい。

平鋼

- ① GW前後の駆け込みも無く、相変わらずの小口当用買い。しかし、スクラップの高騰によりメーカーは大幅値上げ。市況も底上げムードになりつつあり、一部では仮需も発生している。実需自体が回復したわけではなく、先が読めない状況だが、当面、スクラップ高の状況が続くと思われ、お客様には丁寧に説明し価格転嫁を進めていきたい。

軽量開形鋼

- ① メーカー値上げをユーザーへの転嫁が難しい。

- ② 店売りは低調が続いているが、メーカーからの入荷が思ったようにならないので、欠品サイズが増えてきている。
- ③ 受注品種にバラツキが多く、稼働の高低が大きい状況。当分、現状態が続く見込み。

金岡管

- ① 日割りの出荷は増加傾向にあるが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。市況だけは過去最高値となっている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車が発半導体不足の影響を心配されているが堅調な様子。建機も中小型が堅調に推移。大きな変化は感じられない。メーカーは紐付き需要が旺盛で、供給タイト、納期が遅れがちの状況。店売りは横這い。価格は値上げの1万円がほぼ浸透したが、メーカーは追加値上げを打ち出しており、市況は強含みで推移している。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品は、折からの半導体不足から出荷減を予定していたが、想定より減少幅は小さく、売上への影響は少ない。店売り品は、値上げ前の駆け込み需要が若干あったものの、概ね当用買いの細かい受注がほとんど。電炉メーカーを中心に¥10/Kgの追加値上げのアナウンスが来ており、今後の動向に注意が必要。

その他

<鉄線・ナマシ線>

- ① 9月に向けて累計+35円/Kgの値上げ中。ただし、仮需は受けられない状況。(とは言え、若干仮需で増えている感じだ)

<鉄スクラップ>

- ① 相場が急騰した5月だったが、海外市況は落ち着きを取り戻してきている様子。国内、海外ともに様々な情報があり、先行きの相場観を読むことはなかなか難しい。世界中でスクラップを含めて資源不足であることは確実で、そのような状況は今後しばらく続くと見ている。

<金属表面処理>

- ① 5月は物件物、紐付きとも計画通り。スポットの扱い量が前月比▲50%と、予想以上に荷動きが悪かった。6月は引合いの状況から、上振れを期待する。購入品(塗料等)の値上げの話もあることから、状況を見ながら対応する。